

令和3年度 竹田教育事務所 第2回学校訪問まとめ

令和3年12月13日

【目的等】

目的	学校訪問確認シート、目標達成マネジメントツールを活用した検証・改善の状況、「新大分スタンダード」に基づく授業改善、その他学校が抱えている課題について協議を行うとともに、解決のために必要な指導・支援を行う。
期間	令和3年10月19日(火)～12月2日(木)

1. 「学校マネジメント4つの観点」における事務所評価

観点	S	A	B	A以上の割合
I 学校の教育目標、重点目標等の設定・共有	17	18	0	100%
II 短期及び年度を跨いだ検証・改善の実施	30	5	0	100%
III 主任等が効果的に機能する学校運営体制	17	18	0	100%
IV 学校・家庭・地域による目標の協働達成	9	23	3	91.4%

2. 「学校マネジメント4つの観点」に基づく学校マネジメントの深化

観点I 学校の教育目標、重点目標等の設定・共有 (Plan)

「学校評価の4点セット」において、育成を目指す資質・能力は児童生徒の実態及び課題をふまえた上で設定されている。	35/35
学校の教育目標と重点目標は、育成を目指す資質・能力が明確なものとなるよう設定した。	35/35
学校の教育目標と重点目標は、児童生徒の実態を捉え、連携・協働する保護者や地域の方が見ても育成を目指す資質・能力が明確なものとなっており、保護者や地域と共有できている。	35/35
「学校評価の4点セット」の策定プロセスでは、管理職の下、主任等を中心に、それぞれの重点目標の達成に関わる全教職員が関与できしており、その内容が共通理解されている。	35/35
「学校評価の4点セット」において、重点的取組、取組指標が、重点目標の達成に近づくため有効かつ妥当なもの（整合性のあるもの）になっている。	35/35

観点II 短期及び年度を跨いだ検証・改善の実施 (Check・Action)

学校評価の4点セットの検証・改善サイクルの回数							
学期1回	11	学期2回	15	月1回	8	年5回	1
上記以外で、取組によってはさらに短いサイクルで検証・改善を行う。							19/35

上記の検証・改善の結果が、「学校評価の4点セット」に反映されている。	35/35
検証・改善は「検証・改善プロセス（第3ステージプラン冊子p41）」に沿って効果的に行われており、その結果を受けて2学期以降の教育課程（カリキュラム）の見直し・改善を実施した。	35/35
学校評価の4点セットの検証・改善は、教務主任をはじめ、重点目標の達成に関わる主任等が主体的に関わりながら、全職員体制で行った。	35/35
家庭や地域が行う取組（指標）については、学校運営協議会等で熟議するなど、それぞれが主体的に検証・改善できる体制ができている。	31/35

観点Ⅲ 主任等が効果的に機能する学校運営体制

（ミドル・アップダウン・マネジメント、効果的・効率的なチーム体制の構築）

主任等は、目標達成に向けて組織的な取組が行われるよう、その分掌に所属する他の教職員の目標設定や年度途中の進捗管理に関わることができている。	32/35
主任等は、目標達成に向けて組織的な取組が行われるよう、その分掌に所属する他の教職員の目標設定や年度途中の進捗管理に関わることができている。その役割と責任を果たすことができている。（指導・助言が果たされている）	33/35
会議・分掌・行事等の見直しを行うことで学校運営の効率化が図られ、その成果を感じられるものがある。	35/35
養護教諭・栄養教諭、学校事務職員等の少数職種の教職員、SC・SSW・SLや部活動指導員等の専門スタッフ等がその専門性を発揮する必要な体制整備ができている。	35/35
各種校内委員会やケース会議に少数職種の教職員や専門スタッフが定期的に参加でき、必要十分な情報を日常的に共有する環境が整備できている。	34/35

観点Ⅳ 学校・家庭・地域による目標の協働達成（目標協働達成）

「学校評価の4点セット」に、家庭・地域のそれぞれが主体的に取り組むことができる重点的取組と取組指標を設定している。	35/35			
学校の教育目標と重点目標、目標達成に向けて学校・家庭・地域が役割分担して取り組む内容について共有し、熟議する体制ができている。	32/35			
学校運営協議会等において出された家庭・地域からの意見・要望が「学校評価の4点セット」の取組に反映されている。	33/35			
学校・家庭・地域の全体としての負担軽減や学校における働き方改革の推進に繋がる取組が学校評価の4点セットに記載され、それを推進する体制整備ができている。	33/35			
学校・教師が担ってきた業務のうち、代表的な14の業務の在り方に関する考え方を踏まえて、学校・家庭・地域の役割分担が明確にできている取組がある。	24/35			
学校・家庭・地域が役割分担して取り組む内容を共有・熟議し、PDCAサイクルにより検証・改善を行う体制ができている。	33/35			
目標達成に向けて学校運営協議会内に重点目標毎に推進部会等の設置ができている。（設置を検討している）	検討中	5	設置済	30/35
地域連携担当教職員と地域学校協働活動推進員等の協議を定期的の実施するなど、継続性のある協働活動に向けた体制ができている。	22/35			

3. 学校における働き方改革の推進

働き方改革に資する1年単位の変形労働時間制の活用を見据えて、管理職は、校務用パソコンの使用状況等により教職員の勤務時間を客観的に把握・分析等を行っている。(予定である。)	35/35
「1改善運動」(第3ステージプラン冊子p43)の年次計画を作成している。	29/35
ICTを活用した業務改善ができています。(計画している。)	35/35

4. マネジメントツールを活用した教育課程レベルでの校種間連携の推進

【小学校】

来年度に向けて、中学校と重点目標、重点的取組、及び各指標の摺り合わせを行った上で「学校評価の4点セット」等のマネジメントツール及び教育課程の編成をしていく予定である。	17/22
連携する幼稚園・保育所・認定こども園と「学校評価の4点セット」を共有している。(する予定である。)	14/22
実施したスタートカリキュラムについて見直しを済ませた。(来年度に向けて)	16/22

【中学校】

来年度に向けて、小学校と重点目標、重点的取組及び各指標の摺り合わせを行った上で「学校評価の4点セット」等のマネジメントツール及び教育課程の編成をしていく予定である。	11/13
中1ギャップに対応した特別なカリキュラム等を作成し、実施した。	8/13
上記について、実施したものについての見直しを済ませた。(来年度に向けて)	7/13

5. 小・中学校で進める授業改善の徹底

学校の教育目標の下、各教科等の単元の学習内容や学習活動、学校行事計画等を相互に結び付けるなど、教科等横断的な視点で教育課程の編成を行い、実施にあたっては、教科横断的な単元配列表を活用している。	33/35
「新大分スタンダード」に基づいた授業を、単元(題材)のまとまりを見通して1単位時間の「ねらい」や評価規準の適切さ等を確認しながら実施できている。	35/35
毎時間の授業において、視点やポイントを意識した「振り返り」を設定している。	34/35
"教科の専門性に基づく指導方法の工夫改善により、授業の質の向上を図るため、高学年学級担任の交換授業等を実施している。【小学校】 校内(近隣校との)教科部会を定期的に開催している。【中学校】"	小 14/22 中 13/13
GIGAスクール構想の実現に向けてICTを効果的に活用するための研修を実施している。(予定である。)	35/35

6. 「中学校学力向上対策3つの提言」の取組状況等について

生徒による授業評価が計画的に行われ、「学校評価の4点セット」及び授業改善の検証・改善に反映させている。	13/13
教職員が目指す授業像を生徒と共有している。(学力向上プラン、4点セット等に記載の内容)	12/13
学習集団としての目標(学習目標)の設定や振り返りが計画に基づいて行われている。	10/13
学校規模に応じた教科指導力の向上(校内、近隣校との連携)を計画的に行っている。	13/13

7. 特別支援教育の視点からの授業改善(「個別の指導計画」作成率向上の取組)

「個別の指導計画」のについて、検証・改善、見直し等の頻度(予定)。								
年に1回	0	学期に1回	33	学期に2回	2	月に1回	その他	0
2回目(以降)の、「個別の指導計画」推進教員の活用を計画している。								13/35

8. 運動の習慣化・日常化に向けた組織的取組の推進

日頃の児童生徒の実態や体力調査の結果から体力向上プランの検証・改善を実施した。							35/35
日頃の児童生徒の実態や体力調査の結果から「一校一実践」の検証・改善、見直し等を実施した。							34/35
DE(低体力)層への支援を実施できている。							32/35
体力運動能力調査(課題のある項目のみの実施を含む)の実施回数(予定)	年1回	2	年2回	29	年3回以上	4	

9. 健康課題への対応

① むし歯予防対策については、歯みがき指導、食に関する指導、フッ化物の活用の三本柱と生活改善指導を学校保健計画に位置付け、全教職員で組織的に取り組んでいる。	32/35
② むし歯予防対策と合わせて、むし歯のある児童・生徒については保護者に対して治療の呼びかけを行っている。(予定である)	35/35

10. いじめ・不登校対策等の推進

日頃の児童生徒の実態、QUテストやアンケート等の調査結果から、児童・生徒支援対策プランの検証・改善を実施した。	35/35
短時間で継続的に行う人間関係プログラム等を活用した「居場所」や「絆」を意識した学級づくりに学校全体で組織的に取り組んでいる。	35/35
SC, SSW, SL等の校内委員会への参加や研修活用が実施(予定)できている。	35/35